

5. 気象学会役員制度の見直しについて

・総合計画担当理事から役員制度の見直しについて、定款の改訂という側面から問題提起があった。地区理事、地区に固定しない理事の他に委託による理事の枠を設ける等の案について、それぞれの問題点を検討した。今後常任理事の役割と理事選出方法等について検討を進めることとなった。

6. 大会運営について

・春季大会の開催場所を気象庁以外の会場で行う場合の費用、応援体制等の問題点について検討を始めることになった。

7. 理事旅費規定の制定（1992年7月2日から適用）

・従来、大会参加関連の理事のみ規定されていた旅費支給規定を常任理事会、全国理事会、評議員会への出席者に対しても適用することとした。

この規定は各種委員会にも準用してよいことも認められた。

8. 事務局員の給与規定について

・1983年に見直された規定をその後の参照規定（国家公務員の給与規定）の変更に伴う改訂を行い、1992年7月1日より実施する。

第26回夏季大学テキストの頒布についてのお知らせ

「教育と普及」委員会

去る8月3～5日に開催した第26回夏季大学のテキストは好評につき、増し刷りをしましたので、ご希望の方はお申し込み下さい。

主題は「天気予報を支える科学」で、各講師とテーマは次のとおりです。

大気の渦・海洋の渦……………木村 竜治
 天気予報と天気図……………永沢 義嗣
 コンピュータによる天気予報……………隈 健一
 風を捉える……………荒川 正一

数値モデルで見るメソスケールの大気の

流れ……………永田 雅

メソ天気系概念モデル……………入田 央

天気予報の歴史と新しい天気予報の目指

すもの……………宮沢 清治

値 段：一部1,000円

申し込み先：気象学会事務局

TEL. 03-3212-8341（内線 2546）

FAX. 03-3216-4401

編集後記：世紀末である。こんなにも、世紀末が興味深いものとは、思わなかった。戦後永く支配した、冷戦構造を支配したパラダイムがかくも早く崩壊するとは、そして、それをどの理論も予測出来なかったとは、何と面白いことであろう。

同様のことが、気象学にも起きていると思う。古典的な地球流体の物理学から、地球科学へ、総合科学へと、パラダイムシフトが起きているように思われる。ただ、このようなパラダイムシフトは、渦中にあるものにとっては、全く、面白いものでもなく、しんどいものであることが問題である。

この未曾有のパラダイムシフトの時代に生きた幸せを充分に味わいたいものである。例えばがくとも、

（住 明正）

第27期の学会役員体制の発足に伴い、「天気」編集委員会も新しい体制でスタートいたします。編集委員長は藤谷が引き続き務めさせていただきますが、担当理事（副委員長）として編集にご協力いただきました、菊地勝弘氏（北大理）と安富裕二氏（気象庁）が退任されます。どうもご苦勞さまでした。今後は自由な立場で編集委員会にご意見をお寄せ下さるようお願いいたします。

第27期は関口理郎氏（日本気象協会）と中井公太氏（気象庁）が担当理事（副委員長）として編集委員会に参加されます。その他の編集委員および地区編集委員に変更はありません。委員一同気持ちを新たに機関誌の充実に一層の努力をいたしますので、ご支援の程よろしくお願いたします。

（編集委員長）